

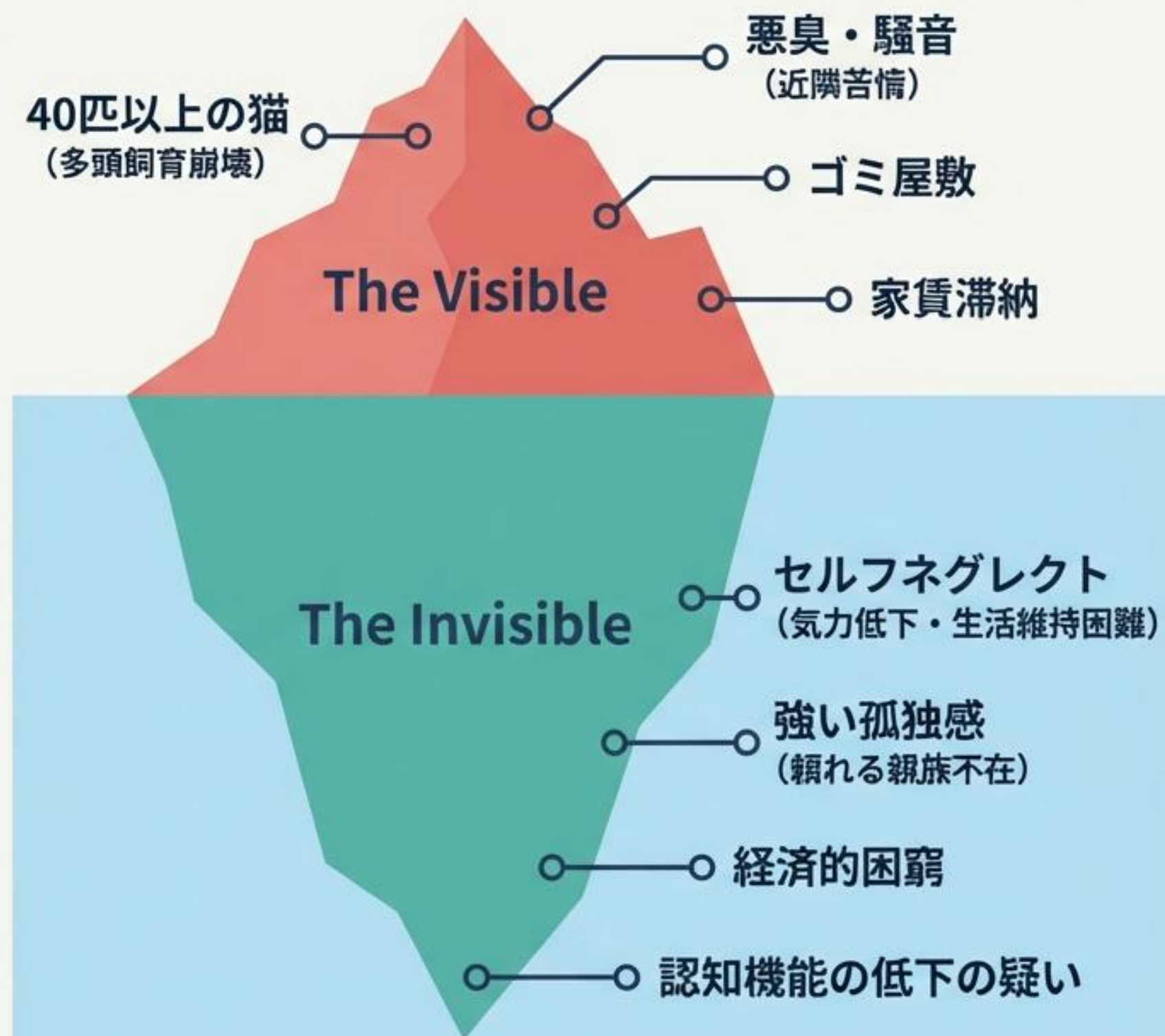
孤立からつながりへ：多頭飼育崩壊とセルフネグレクトを防ぐ「川の上流」とアプローチ

複雑な福祉課題を解決するための
ケース分析と地域介入のロードマップ

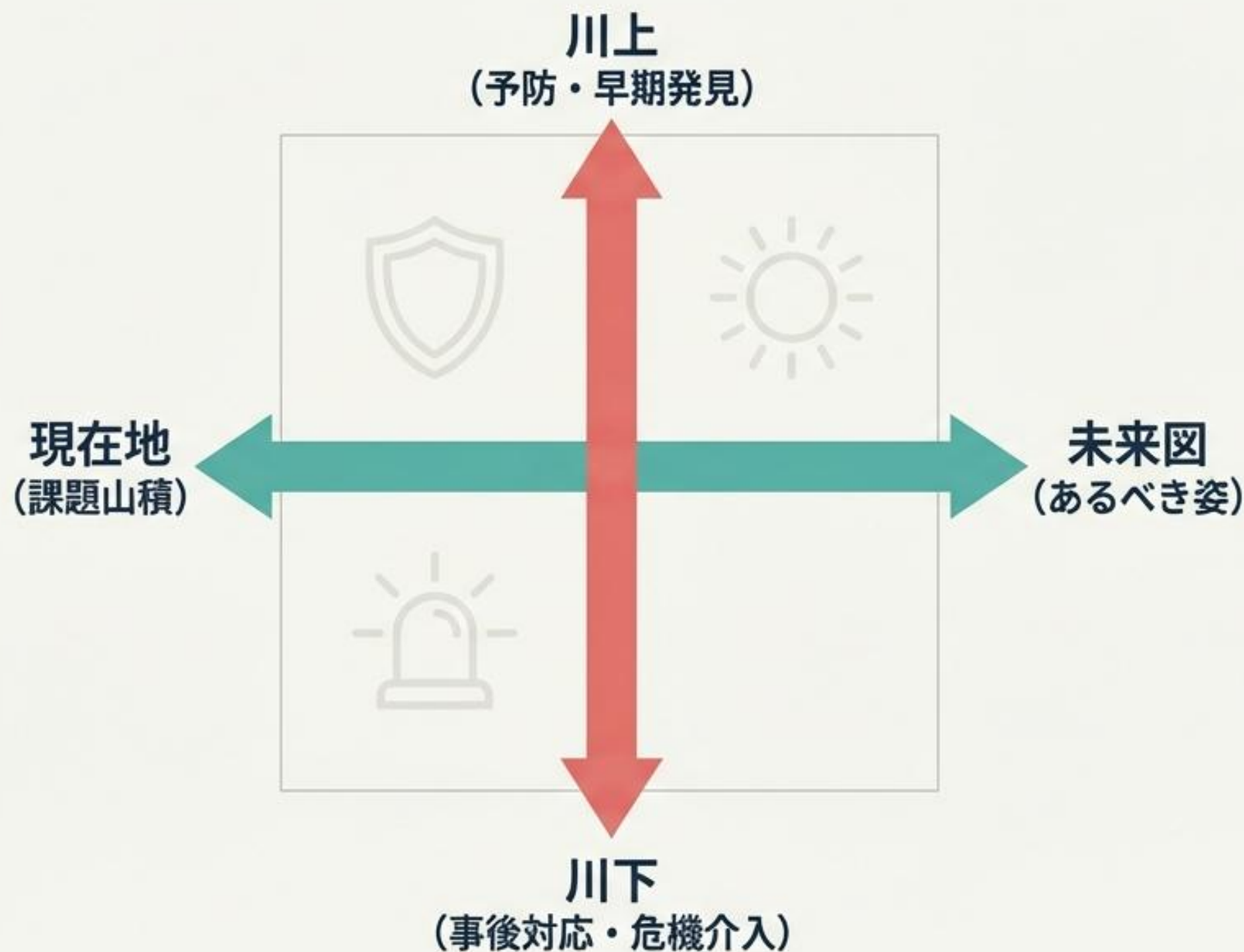
本資料は、社会的孤立事例（Aさん）の時間軸・構造的マトリクス分析ワークショップのアウトプットを統合したものです。



表面化する「迷惑」と、 水面下の「SOS」

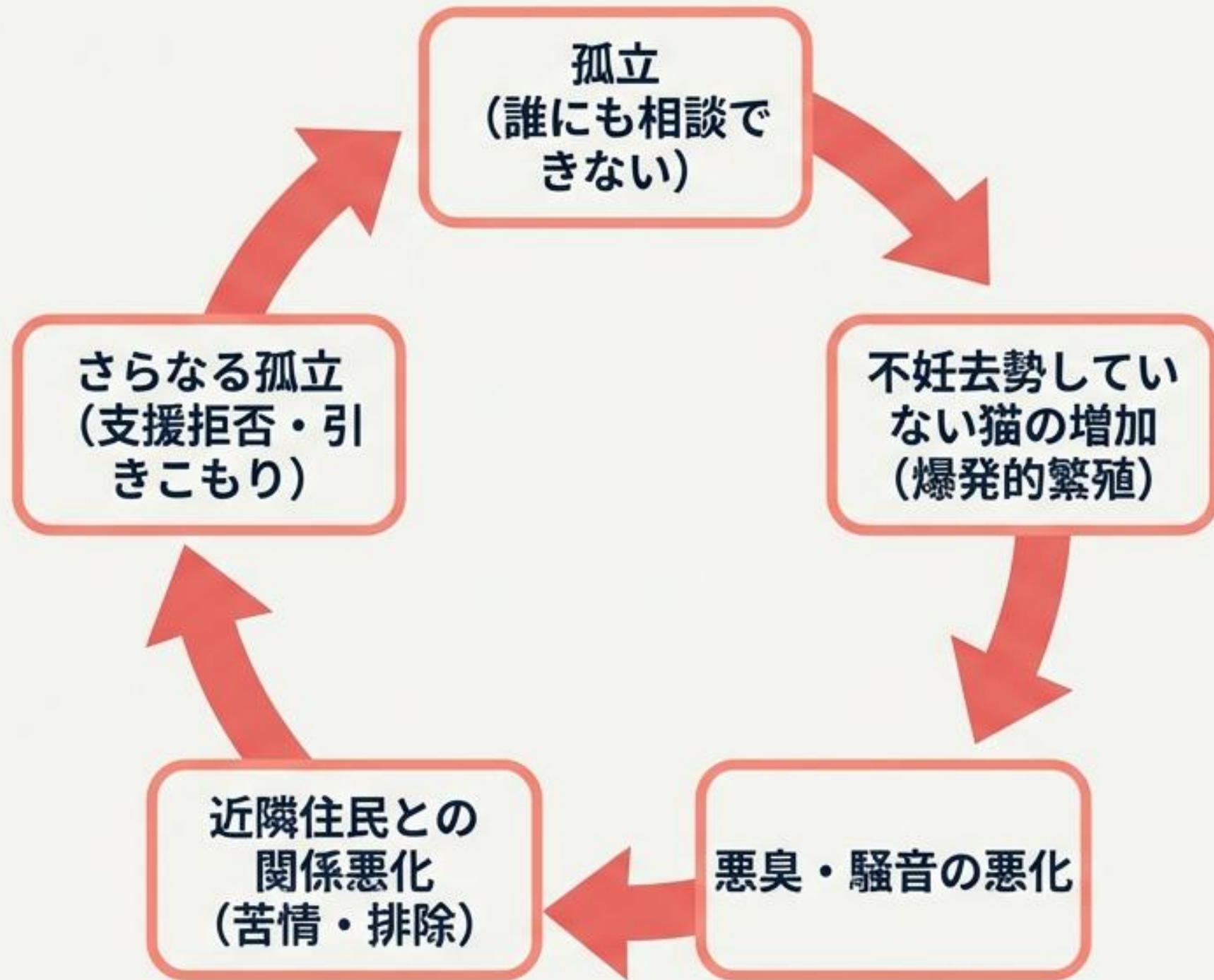


現状分析のフレームワーク：時間軸と介入深度のマトリクス



従来の福祉対応は「川下・現在」
(起きてしまった問題への対応)
に留まりがちです。
本プロジェクトは、視点を
「川上・未来」(予防と環境構築)
へ移すことを目的としています。

「川下」の現実：事後対応の限界と悪循環



対症療法的な介入 (Reactive Measures)

- 退去勧告
- 行政代執行
- 猫の全頭手術/保護

「川上」への転換：早期発見と予防のアプローチ



早期の避妊去勢
(繁殖爆発を防ぐ)



見守り
(監視ではなく、
ゆるやかな観察)



あいさつ・声かけ
(地域との接点を
維持)



関係機関との連携
(包括などへ早期
につなぐ)

「孤立を防ぐことが、崩壊を防ぐ。」

役割分担：誰が何をするのか？



住民・近隣 (Community)

- あいさつ
- 異変への気づき
- おせっかい
(孤立させない)
- 地域での受け入れ



専門職・行政 (Professionals)

- 医療介入・受診同行
- 生活保護・金銭管理
- ボランティア導入調整



本人 Aさん (Individual)

- 生きる意欲の回復
- 片付けへの同意
- 社会との再接続

「ゆるやかなつながり」の重要性

- 地域サロンの活用
(日中の居場所づくり)
- 病気の理解
(「だらしない」ではなく
「セルフネグレクト」という認識)
- 関係の修復
(監視する側から、見守る側へ)
- ゴミ出し支援
(住民ができる具体的な手助け)



専門的介入：生活と医療の立て直し

経済的基盤 (Economic)

Crisis/Downstream

生活保護申請・金銭管理の代行
収入が少ない
家賃滞納
生活全般の管理を行うが仕事
借金

医療・健康 (Medical)

身体・精神疾患の治療

身体・精神疾患の治療
認知症検査
糖尿病・高血圧
セルフネグレクト
体調が悪い
足が不自由

住環境 (Environment)

特殊清掃・リフォーム・廃棄物処理

ゴミ屋敷
悪臭
害虫
不衛生な環境

動物福祉 (Animal Welfare)

保護猫団体との連携

不妊去勢手術
猫の数が多
猫の糞尿
飼育放棄
近所から苦情

未来図：Aさんと地域のあるべき姿

Aさんの変化（Individual Outcome）

- 部屋が清潔に保たれている
- 猫の健康管理ができていている（2-3匹の適正飼育）
- 本人の健康状態と意欲が回復

地域の変化（Community Outcome）

- あいさつができる関係性
- 地域住民が病気や背景を理解している
- 困りごとを早期に相談できるルートがある



結論：対症療法から、地域で支える予防モデルへ

従来のアプローチ



目指すアプローチ



多頭飼育崩壊の解決策は、動物管理ではなく「人のつながり」にある。

最初の一歩は「おせっかい」と「あいさつ」から



専門職は「命」を支え、
地域は「心」を支える。

複雑な制度よりも、たった一言の「おはよう」が孤立を救うきっかけになります。

